奥日光に訪問されたお客様の声

お知らせ

日光の紅葉は、台湾の山と 比べても素晴らしいです。 台湾人男性ガイド

アジア系女性

Snow scene is very nice.

新婚旅行で湯ノ湖に来ました。 湖畔で記念撮影をしています。 アジア系男女カップル 宿で食べた夕食の「しゃぶしゃぶ」が美味し かったです。これから刈込湖方面に、雪の ハイキングに行きます。

フランス人男女カップル

正月休みで娘と来ました。今回は 雪が少なくて残念ですが、また来 ますね。 日本人女性 東北などクマの被害を聞きますが、 奥日光もクマが多いのですか? 日本人男性

*クマの生息地なので目撃例が報告されますが、目撃数が特別に多い状況ではないようです。

スノーシューレンタル



新雪が積もれば、待ちに待ったウィンタースポーツの季節到来!! 誰も歩いていない白ー色のスノーフィールドに飛び出す絶好のチャンス。 ぜひ一度、奥日光のパウダースノーの醍醐味を体験してみてください。

レンタル料金(1日) ※レンタル開始時期や詳細はお問合せください。

- ・スノーシュー(大人) 1,000円
- ・スノーシュー(小学生以下) 500円
- ・ストック・スパッツ 各 200 円

※ 奥日光スノーフィールドの楽しみ方 ※

湯元周辺は、モミやツガ等の針葉樹の森と湖があって、まるで北欧にいる気分。適度の傾斜もあって、 スノーシューにも最適。雪山なのでルールとマナーを守り、自己責任で楽しい一日をお過ごしください。

- 1. 冬は、雪で道がわからないとか、天候の急変等のリスクがありますので、安全を確保してください。
- 2. 野鳥やシカ等の野生動物に絶対にエサを与えないように、ゴミも絶対に持ち帰りましょう。
- 3. 金精沢周辺の沢筋では雪崩が発生しやすいので、休憩しない、とどまらない等注意が必要です。
- 4. 蓼ノ湖、刈込湖方面は山が深く、十分な食料や装備をもちましょう。初心者のみの入山は危険です。
- 5. 戦場ヶ原・小田代原内部は特別保護地区です。植生保護のため、積雪があっても立ち入らず、ルート上に設置された目印のポールや赤布に沿って歩きましょう。

当センター開館時間・休館日のお知らせ

2-3 月 9:30~16:30 (水曜休館)

〟【表紙の話】

前白根山から見る雪の奥白根山の絶景。初めてその姿 を見た時、その怪奇な溶岩ドームに威圧される気分に

- なった。たとえ、これからさらに苦しい登行が待ち受けていても、あきらめる事なく、一歩ずつ歩みを進めて山頂に向かうのは、登山する者の宿命であり、また、喜びかも
- * しれない。

編集後記

厳寒の時期でも、奥日光に訪問されるお客様がいつでも快適に使えるように、公衆トイレを暖房して、水道も凍らないように維持管理するのは、コストもかかるが素晴らしいサービスだと思っている。大晦日のトイレ巡回の時、酒やビールの空瓶・空缶が放置されているのを見て悲しくなった。国際的な観光地のトイレとして恥ずかしくないように清掃もするが、お客様には、環境の厳しい山岳地帯の施設である事を理解されて、丁寧に利用して頂きたいものだと思った(M・K)

楓通信 No.127 日光湯元ビジターセンター発 - 奥日光の自然情報誌-

2016年2月1日発行 次号4月初旬発行予定

隔月発行 一部 100 円 年間購読料 1,000 円(送料込)

- 年間購読のお申込み

<u>氏名・住所・電話番号</u>を明記の上、郵便振替にて<u>自然公園財団宛</u>に 購読料をお支払いください。年途中からでもどうぞ! ゆうちょ銀行 振替 No. 00370-3-7232

一般財団法人自然公園財団日光支部 〒321-1662 栃木県日光市湯元 日光湯元ビジターセンター内 TEL 0288-62-2321 FAX 0288-62-2378 日光湯元ビジターセンター発 奥日光の自然情報誌 No.127

楓通信

2

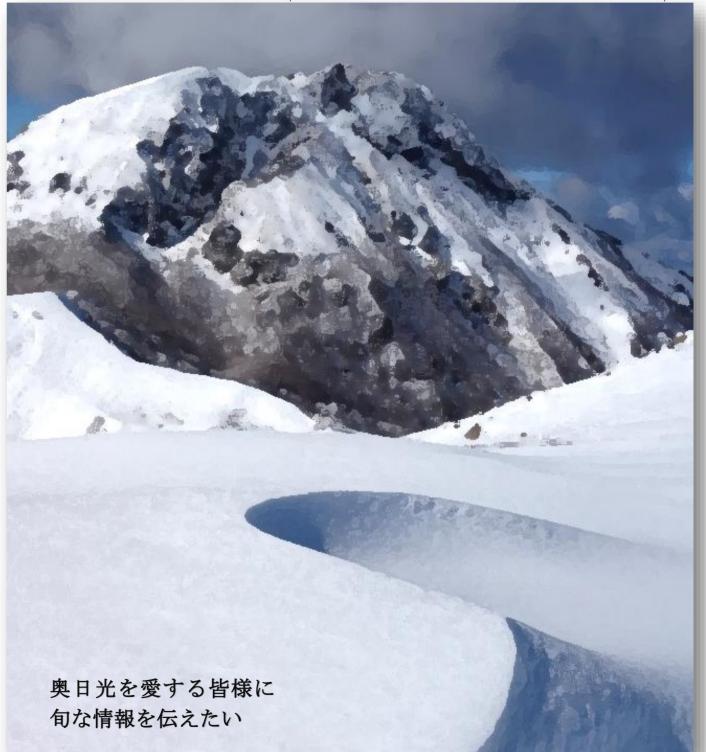


2017 年 2 月 1 日発行



* * *

* * *



奥日光 歲時記 平成28年11月~平成29年1月

発達した低気圧の影響で、50年ぶりの記録的な豪雪となった12月下旬の札幌。クリスマスを迎えようとする 同じ頃の日光湯元では、気温が春のように上昇して、せっかくの積雪が湯元のスキー場から消えてしまった。 気象庁が発表した平成29年1~3月の3ヶ月予報では、寒気の影響は小さく、気温も平年並みか高いようだ。 いつものように雪が降って、心行くまで雪遊びが楽しめる「普通の冬」になってほしいと願っています。



2016.11.26 湯ノ湖北岸にある展望台から見るダイヤモンド男体山



2016.12.16 冬将軍襲来で凍結した湯ノ湖



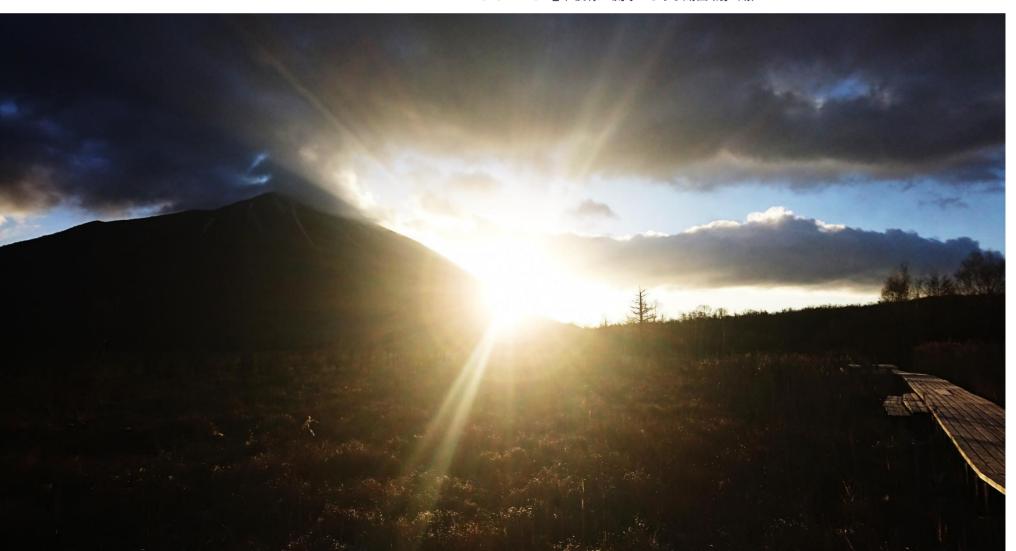
2016.12.18 亀甲模様の流氷のような湖面(湯ノ湖)



2016.12.2 今年も冬鳥の季節がやって来た(オカヨシガモ・湯ノ湖)



2016.12.12 冬仕度をはじめた刈込湖



2017.1.1 積雪のない戦場ヶ原から見る男体山と初日の出

2 楓通信 '17年2-3月号 楓通信 '17年2-3月号 3

奥日光湯元温泉の今昔

➤ 元温泉は来年(平成30年)開湯1230年になります。 西暦 788 年に日光開山の祖、勝道上人によって発見 され発展してきました。現在に至るまで様々な歴史を重ね変 遷してきましたが、私がもっとも驚嘆したのは、明治期から多く の外国人が湯元温泉を訪れているという事実です。

奥日光の記録は、江戸時代文政年間に、日光東照宮の警 護が主な仕事であった八王子同心の植田孟縉が著した、『日 光山志』がその代表とされます。その中で湯元温泉は、中禅寺 温泉八湯(河原湯·薬師湯·姥湯·瀧湯·中湯·笹湯·御所湯· 自在湯)とされ、各元湯の効能や温泉の熱さなどが記されてい ます。また、各元湯は、湯室と称される屋根つきの建物を有し

ていました。春(5月末)から秋(9月初旬)にかけて、日光町か ら米や野菜などを運び込んで、湯室を開いていたと記されてい

明治維新を経て日光を訪れる外国人の数は増え続け、英 国駐日公使のアーネスト・サトウ (Ernest Satow, 1843-1929) や旅行家のイザベラ·バード (Isabella Bird, 1831-1904) など が、故郷の英国の気候風土に似ている奥日光を訪れていま す。その中でも、明治 11 年横浜から北海道までを旅しているイ ザベラ·バードの著書『日本奥地紀行 (Unbeaten Tracks in Japan) 』は、当時の日本の文化や風俗等を克明に記録して おり、奥日光湯元温泉まで足をのばしています。

イザベラ·バードが湯元温泉を訪れた時期は6月中旬で、中 温泉図等を参考に現地を訪ね歩き、当時の面影を残す風景

禅寺湖畔から竜頭滝、戦場ヶ原、湯滝、湯の湖畔を経て湯元 温泉に到着し温泉宿「吉見屋」に1泊しています。中禅寺湖畔 のトウゴクミツバツツジの美しい風景を描写し、竜頭滝の野仏にが、多くの外国人が賞賛し愛した四季折々の美しい奥日光の 安らぎを覚え、戦場ヶ原を抜け、湯滝までの美しい森林と林床 に広がる露頭した岩を覆い尽くす美しい苔に感動しています。

イザベラ・バードは、この旅で、湯元の風景や「吉見屋」にい た若い女中さんなど、多くのスケッチと写真を残していますが、 特に「吉見屋」の美しさに感動し、妖精が泊まるにふさわしいと まで表現しました。私は、これらの文章やスケッチ、写真で美し く描かれている湯元温泉の当時の様子を知ることはできないも のかと、明治後期の絵はがきや、明治・大正期の日光中禅寺

に出会うことができました。

毎日、中禅寺湖畔から湯元温泉まで車で通勤しています 自然の中を走ることへの歓びを、あらためてかみしめています。

この奥日光のすばらしい自然を誇りに思うとともに、多くの歴 史を積み重ねてきた奥日光湯元温泉のすばらしさを、より多く の皆様に知っていただきたいと思っています。

例年になく雪が少なく、暖かい正月を迎えた湯元温泉です が、ぜひ奥日光に訪れて、四季折々の極上の自然と温泉等を 満喫してください。また、日光湯元ビジターセンターにも、ぜひ お立ち寄りください。お待ちしています。

日光湯元ビジターセンター所長 佐藤 基明



「吉見屋」があった場所の現在の様子

中央に「吉見屋」の唐風屋根の門が見える?



「南間旅館」があった場所の現在の通りの様子





イザベラ・バードが描いた 「吉見屋」の若い女中



左の写真の時代より数年後の整備された通り





「吉見屋」の唐風屋根の門 (栃木県立格物刊所蔵「日光中禅寺温泉図」明治32年5月25日発行者鬼平金四郎の一部を引用)

明治後期の「南間旅館」からの「吉見屋」前の通り



宿屋·湯元(「南間旅館」内湯)



美しい森林を抜けて戦場ヶ原に出る付近(一トロ水付近)





大正後期の湯元温泉

『館所蔵「日光中禅寺温泉図」明治 32 年 5 月 25 日 発行者鬼平金四郎を引用) 羽館所蔵「日光中禅寺温泉之図」大正 10年 松井天山画を引用)



明治後期の「釜屋旅館」と 通りの様子



上の写真とは別の角度で撮影



「釜屋旅館」の入口の街灯や釜屋客室前の郵便ポスト?が描かれています。 (栃木県立博物館所蔵「日光中禅寺温泉之図」大正 10 年 松井天山画の一部を引用)

日光の気象

文◆辻岡・・

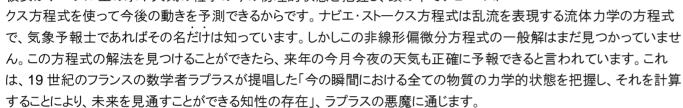
気象予報士の資格を持つスタッフが、 毎回 1 テーマを分かりやすく解説します。

■気象用語が出てくる小説

気象の専門用語の多くは、日常の場ではほとんど使われることはありません。テレビの天気予報で使われる用語はほんの一部です。気象予報士は知っていても一般には知られていない、そんなオタク的な用語が出てくる小説を見つけました。今回は本題からそれて、そんな小説を2編紹介します。

一つ目は、人気ミステリー作家・東野圭吾の「ラプラスの魔女」です。東北地方と北陸地方のひなびた温泉地で、立て続けに硫化水素ガスによる中毒死事故が発生します。2件とも普段から硫化水素などは発生しない場所で起こりました。何者かが人為的にガスを発生させたことが疑われますが、屋外ではガスは風で拡散してしまいます。ただし、気象条件が揃ったときには、空気より重い硫化水素ガスは拡散することなく流れて、ある一点で高濃度になる可能性があります。しかし、犯行を可能にするためにはその気象条件を正確に予測し、被害者をその時間、その場所に誘導することが必要です。

主人公は、18歳の少女、羽原円華(うはらまどか)。彼女はテーブルにこぼれた水の動き や雷雨・竜巻の発生を正確に予測する能力を持っています。なぜそれができるのか、それは 彼女がテーブル上の水や大気の粒子の今の物理的状態を把握し、頭の中でナビエ・ストー



2件の中毒死事故の原因調査を依頼された環境科学者青江は、両方の現場近くで円華を見かけます。しかし彼女は犯人ではありません。彼女は事故現場でいったい何をしていたのでしょうか。

二つ目は川端裕人の「雲の王」です。雲の王とは、雷雨、竜巻、豪雨、降雹など激しい気象 現象を起こす積乱雲のことです。ここでも主人公はアラフォー・シングルマザーの女性、南雲 美晴(なぐもみはる)です。美晴は気象大学校を出て気象庁高層気象台に勤務し、ラジオゾン デによる高層気象観測を担当しています。

美晴もまた特殊な能力を持っています。それは水蒸気の流れを見ることができる能力です。彼女は、雲を樹木に実る果実として、その下で上昇する水蒸気を樹木の幹として見ています(この見方は納得できます)。成層圏まで達する巨大な積乱雲を美晴は世界樹として認識します。ぽっかりと空に浮かぶ積雲が世界樹にまで発達するかどうかが美晴には分かります。



全球数値予報モデル、マッデン・ジュリアン振動、バタフライ効果、プラネタリー波など、気象予報士には馴染み深い用語であっても一般的には全く使われない用語がポンポン出てきます。

美晴は、房総半島のある場所にある"郷"出身の"雲の一族"の末裔です。そんなことも忘れていたある日、あることがきっかけで彼女は小学 6 年生の一人息子、楓大(ふうた)と"郷"に向かいます。そこで彼女を待っていた運命とは。

以上 2 編とも、気象の知識には全く関係なく楽しめるエンターテインメント小説です。 晴れた日は奥日光でスノーシュー・ハイキング、吹雪いていそうな日は家で読書などいかがでしょうか。

2016 年の平均気温・湯元

	2月	3月		
最高気温	1.1℃	5.0°C		
最低気温	-8.0°C	-3.1℃		

2017年 日の出日の入(宇都宮)

2017 中 日の田日の八(丁都日)				
	2/1	3/1		
日の出	6:42	6:11		
日の入	17:06	17:35		

※自然公園財団日光支部の記録より ※国立天文台ホームページより

2017年 天文情報

P 4P 4 3 M			
	2月	3月	
満月	14 日	12 日	
新月	29 日	28 日	
目立った流星群の活動はなし			

※国立天文台ホームページより

日光湯元ビジターセンター

凍てつくような寒さを肌で感じながら、美しい雪景色の中で、とっておきの自然体験を!

申込受付中

足跡や樹皮をかじった跡など、厳しい冬を 生き抜く動物たちの証を探しに行こう!

日時:2月26日(日)9:30~14:30 集合場所:日光湯元ビジターセンター 参加費:500円 定員:15名



冬回流3.1一型1.一散瓮

申込受付中

スノーシュー経験者向け。美しい雪景色の 森で、冬の自然を探しに行きましょう。

日時:3月5日(日) 9:30~14:30 集合場所:日光湯元ビジターセンター 参加費:500円 定員:15名



イベントのお問合せ・お申込み

電話・FAX にて次の事項を下記までお知らせください。

①イベント名②氏名③年齢④性別⑤住所⑥電話番号(当日連絡のつくもの) ⑦集合先までの交通手段⑧この催しの情報源⑨前・後泊の有無⑩レンタルの有無

環境省 日光湯元ビジターセンター(一般財団法人 自然公園財団日光支部) TEL 0288-62-2321 FAX 0288-62-2378

- ■受付は先着順となります
- ■小学生以下保護者同伴
- ■持ち物・服装などは、約1週間前に ハガキでお知らせいたします

•••イベントレポート

冬のバードウォッチング 12/3(±)13:00~15:00

よく晴れて観察日和となった当日、はやる気持ちを押さえて、まずは ビジターセンターで水鳥の特徴を紹介し、主に見られる種類を把握して から、いざ湯ノ湖に出発!

静かに近づくと、水鳥たちもあまり逃げずに、ゆつくりその愛らしい姿を 観察させてくれました。オオバンとヒドリガモが一番多く、湯ノ湖では数が 少ないミコアイサの姿も。マガモの鮮やかな足の色や間近でみるトビの 迫力など、身近な鳥の魅力も発見できました。センターに戻ってからは 実際に鳥の羽毛にふれる体験も。

水鳥は 4 月までみられるので、みなさんもぜひ双眼鏡で観察してみてください。





6 楓通信 17 年 $^{2-3}$ 月号